

広島保健学学会の設立趣意書（2004年8月5日）

少子高齢社会の到来と近年の医学・医療の進歩にともない、保健学の領域において高度の知識や技術を持ち、社会の多様なニーズに対応できる人材が求められています。先進的で質の高い医療を実現するためには、相互に連携してチーム医療に当たる優秀な医療従事者の確保が不可欠です。このような状況に対応するため、平成4年に広島大学医学部は、看護学、理学療法学、作業療法学の3専攻を備えた保健学科を開設し、それ以降、保健学の分野で常に先頭に立って道を切り開き、順調に発展して博士課程前期および後期を開設し、多くの優秀な高度専門職、教育者や研究者を輩出して参りました。今や学部卒業生および大学院修了生は日本中でめざましい活躍をしています。

平成16年4月には広島大学大学院保健学研究科として改組され、一層その役割を果たすことが期待されています。その付託に応えるとともに、第一線で働く医療人の再教育、卒後教育の充実とさらなる研究活動の活性化のため、広島大学大学院保健学研究科は、広島保健学学会を創設することと致しました。

広島保健学学会は、この分野の拠点として、学術集会や各種の研修会を開催し、最新知見の発信と技術の普及に努めます。また、研究成果の発表や情報交換の広場を提供し、関連職種間の交流促進などの活動を通じて、保健学の進歩と発展を図り、人々の健康的な生活の向上に寄与することを目指す所存です。

（貴台におかれましては、設立の趣旨に何卒ご賛同下さり、本学会の運営と発展に今後ともご鞭撻ご支援下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。）